

教職員の皆さんへ

子どもが安心して学べる学校生活にむけて

半年前には想像できなかった大きな変化の中で学校が再開されました。

以前よりも忙しい日々のなか、子どもたちのために毎日を頑張ってください、本当にありがとうございます。

学校が始まり、子どもたちは少しずつ日常を取り戻しつつあります。

コロナウイルス禍において、DV相談や子ども虐待の相談対応件数が増加していることが明らかになっています。



朝日新聞
デジタル
5月12日

子どもの虐待、全国で1~2割増 休校や収入減も影響か

新型コロナウイルスの感染拡大による休校や外出自粛で、子どもの虐待が増えるとの懸念が高まっていることから、厚生労働省は全国の児童相談所が1~3月に訪問や一時保護などの対応をした児童虐待件数（速報値）をとりまとめた。いずれも、前年に比べて1~2割強の増加となった。

家庭において

なんらかの不適切な関わりを受けたり、見たりして、緊張感の中で過ごした子どもたちは多いと考えられます。

やっと始まった学校も

新しい生活様式に取り組んでおり、「してはいけないこと」が多く、その変化に対する戸惑いや感染への不安を感じている子どももいます。

医療従事者を家族に持つ子どもたちのなかには、いじめられるのではと心配している子どももいます。

「経済不安で 夫が暴力」 DV相談3割増、 コロナ影響か

全国の配偶者暴力相談支援センターに4月に寄せられた相談件数は1万3272件（速報値）で、前年同月より約3割増えた。

朝日新聞デジタル
5月22日

今回のような感染の集団発生は、国際的にはテロや戦争、自然災害と同様に心とからだのバランスを崩す災害の一つであることが知られています。

急激に生活が変化して、外出自粛や感染防止のために行動を制限され、不安や戸惑う状況に長く置かれると心とからだのバランスが崩れ、それが様々な形で現れます。それは誰にも起きる自然な反応です。



まず、そのことを先生方は知っていてください。
そういう状態になることは
自然なことだと子どもたちに伝えましょう。

東日本大震災や各地で起きた大きな災害後は、
少し時間をおいてこれらの反応が
子どもたちに現れました。
学校で「あれっ?」「おやっ?」と
先生が感じる子どもたちの変化は
もう少し後になるかもしれません。

また、その子どもたちの変化の中には
家庭の経済不安、家族の関係の不安定さ、
学校生活における人間関係への不安によるものも
含まれています。

子どもたちは自分に起きていることを
言葉だけでなく、行動や症状など様々な形でSOSのサインで知らせてくれます。

観察することが大切です。

子どもたちは力を発揮できない状況になっているだけで、
決して無力ではありません。

早い段階で支援し、子どもたちが力を回復していけるように、もやもやした気持ちや自分の心やからだ
に起きている変化を話していいということを、何度も繰り返し伝えましょう。

「話すことは大切な自分を守るためにとっても大事なことだよ」と伝え続けましょう。
それは予防です。

そして、少しずつ、子どもが自分で調節できるようにサポートをしていきましょう。
信頼できるおとなのサポートによって、
子どもたちはもともと持っている力が少しずつ発揮できるようになっていきます。

長い時間の外出自粛やこれからも続くだろう
コロナウイルス禍は、先生自身にも影響を与えています。
心、からだの健康、生活のこと、家族との関係、子どもたちのこと、職場での関係……。

読売新聞
デジタル
6月16日

児童虐待対応、1～4月は 12%増え6万6000件 …コロナ疲れも一因か

全国の児童相談所（児相）が今年1～4月に児童虐待として対応した件数は、
6万6789件（速報値）に上り、前年同期比で12%増えたことが
16日、厚生労働省の緊急調査で分かった。
新型コロナウイルスの感染拡大に伴う自粛生活のストレスから、
虐待に及ぶケースも報告されているという。

「コロナ×こどもアンケート」第1回調査報告 国立成育医療研究センター社会医学研究部
こころの診療部を中心としたグループ

コロナ禍におけるこどもたちの生活と健康 ～ストレスを抱えているこどもが多く、注意が必要～

- ・就寝起床時間のずれは小学生以上のこどもの61%に生じていました。（こどもの回答）
- ・スクリーンタイム（デジタルデバイスを使用している時間）が
1日4時間以上のこどもが全体の31%を占めていました。（こどもの回答）
- ・何らかのストレス反応を呈しているこどもが75%いました。（こどもの回答）
- ・保護者の62%がこころに何らかの負担を感じていました。（保護者の回答）

そのままにしていると、
ご自身の心とからだの健康が損なわれたり、
子どもたちや家族、身近な人の心とからだを傷つけることをしてしまうかもしれません。
誰でもそういう危険があるのです。

「自分は大丈夫」
「たいへんなのはみんな同じ」
と思うかもしれませんがひとりで頑張るのはやめましょう。

自分ひとりで頑張ることが強さではありません。

先生、あなたは大切な人です。

頼っていい。困っていると言っていい。
困っているんだから、助けてもらっていいんです。

支えあい、助け合うおとなのモデルを見ることは、
「困ったら助けてもらっていい」のだと、子どもたちが学ぶ機会です。
対等な関係で支えあい、助け合うおとなを子どもたちに見せていきましょう。

学校のなかで、
学校の外の機関や社会資源、家庭、地域と子どもたちの情報を共有し、
連携してサポートしていきましょう。

それは、
子どもたちにとって「守られる」ということを
実感する機会でもあります。

学ぶことは子どもたちの権利です。
不安定で見通しの立たない状況のなかで子どもが学ぶ意欲を持つには、
学校が安全で安心して過ごせて、つながりを感じられる場であることが必要です。

子どもたちの力になりたいと思っている人は地域にはたくさんいます。
学校だけで、先生だけで頑張らなくていいんです。
ご一緒に取り組みませんか。

